



「快感美庭」に込めた熱い思い(前編)

年号が昭和から平成へと変わったころ、20代半ばの五月女善重は、父親が副業として経営していたパチンコ店で働き始めた。

「大学を卒業した私はそのまま東京に残り、会計士を目指そうとしていましたが、ほどなくして父に呼ばれ、栃木に戻りました」

学生時代、長期休暇の折にはカウンター業務

PROFILE/五月女善重(さおとめよししげ)さん

1965年生まれ。大学卒業後、家業の建築資材会社を経てバーラー業務に関わる。訂調整を含む現場の仕事を経た後に、2000年に屋号をライブガーデンに変更、2003年に五月女総合プロダクト株式会社代表取締役社長に就任。栃木県を中心に現在バーラー11店舗を展開する。今年8月には「快感美庭」をコンセプトにしたライブガーデン行田17号バイパス店をオープンさせた。

などを手伝っていたが、まさか自分がパチンコ部門で働くとは予想もしていなかった。

パチンコホールでは肩書無し的一般社員からのスタートだった。毎朝誰よりも早く出勤して店を開け、玉運びなどの重労働をこなし、閉店した後は現金業務、そして一台一台の釘調整をして、仕事が終わるのは明け方。

一人で相当数の釘を担当するためハンマーを握る手には血が滲み、ズキズキ痛んだ。寝る時間はほとんどなかった。

「若かったので体力的にさほど問題はなかったのですが、当時はお客様の反応が露骨でしたね。そ

情報満載!総合マガジン
この一冊で癒されます

～パチンコ帰りの貴方を癒す～

After Pachinko 王様手帖

10

王様の目/パチスロ5号機屈指の人気作『リンかけ』最新作が登場

2010.10/No.565

魔法使いアレスのマジックを覚えて人気者になろう/第2回「甦る風船」

銀玉業界列伝/バーラーを地域社会のコミュニティに

「快感美庭」に込めた熱い思い(前編)/五月女総合プロダクト(株)代表取締役 五月女善重

キャンブルの最前線/一押しレース・ボートレース平和島

平成二十二年十月一日発行(毎月一回一日発行)第四十八巻十号
昭和三十九年五月二十三日第三種郵便物許可通第565号
発行所 株式会社アドスケール
東京都新宿区市谷田町一丁目11-1 サンシビル4F
〒162-0843 TEL.03-3260-3134

毎月
豪華賞品が
当たる!





五月女社長の経営理念は様々なメディアで取り上げられた。

早く逃げ出したい。』
父の会社を去り、別の業種に就くことを考えた。さまざまな国家資格の本を取り寄せ、違つ世界に夢を描いた。そんなある日、客と従業員が怒鳴り合つ声が飛び込んできた。クレームを言う客に対し、従業員は「文句があるなら来るな!」と返していた。
「普通ならお客様には『申し訳ございません』と言いますよね?それが謝罪するどころか、応戦していたのです」
五月女はハツとした。「パチンコが悪いのではない、悪いのは従業員の教育なのだ。私はそれまで、環境の悪さをすべて

目』として腫れ物を触るように扱われる。相談できる同僚もいない、厳しい父に泣き言などいえない。いいようもない孤独に、五月女は次第に追い込まれていった。『こんな業界はイヤだ。一刻も

て『パチンコ』のせいにしていました、それは間違いだと気付いたので。そして、きちんとした接客教育を遂行できるのは、私しかないのだと思いました」
店内を見渡すと、相変わらず客同士はいがみ合い、客と従業員は一触即発で、殺伐とした雰囲気だった。「そうだ、二代目としてホールを任された自分がなすべきことは、『従業員教育』と『お客様への快適空間の提供』なのだ」このときの思いが、のちの2010年に掲げる「快感美庭」につながるのだが、それは思い描くほど簡単な道のりではなかった(続く)

のころのパチンコ店は『ガラが悪くて当たり前』の世界でした」
店内ではトラブルが頻発し、客同士の喧嘩もよくあった。
「常連様の中には、『コ』は俺の店だ』という意識が芽生えるようです。非常にありがたいのですが、そういった『主』の根性が、新規のお客様に睨みをきかせてしまうのです」
客同士で「『コ』は俺の席だ」「『コ』は俺の台だ」と言い合いになり、時には殴り合う場面もあった。「お客様は喧嘩をみた私は、とっさに『止めなさい』と飛び出したのでや!」と飛び出したのですが、その途端に背後から「五月女君はいいから!」と先輩社員から羽交い絞めにされました。「経営者の息子を危険な目に遭わせてはいけない」という配慮だったと思います」
しかし客にとつて、五月女が経営者の息子であることなど関係ない。常連客の新人試しは、五月女にもおよんだ。
「20年前近く前になりましたが、入社したばかりの私がホールを歩いていると、お客様がわざと肩をぶつけて来たり、煙草を

フウッと吹き掛けてきました。私は煙草を吸いませんで煙で目がやられてしまい、常に真っ赤に充血していました」
客と従業員の揉め事も日常茶飯事だった。五月女自身も「出ない」と文句を言われ、灰皿を投げつけられた。火が着いたままの吸い殻が頭部にあたり、髪の毛の焦げる臭いが悲しく鼻を突く。過酷な状況の中、パチンコ業界の厳しい実態を痛感した。
客からは「パチンコ店の新入り」としての洗礼を受け、社員からは「二代



今年度の新卒社員(14名)と五月女社長。